

ひとりぼっちをつくらない地域づくり
社協だより No.246 2017 3月

ご報告 平成28年度 歳末たすけあい報告
 ご協力ありがとうございました

歳末たすけあい募金は、赤い羽根共同募金の一環で、稲美町内の支援を必要とする方が安心して新年を迎えられるようにと行う募金です。(運動期間 毎年12月1日～31日)

(平成29年2月13日現在)

収入	平成28年度実績 (円)	備考
戸別募金	1,278,450	8,523戸
街頭募金	20,000	
その他	3,413	個人募金、利息
合計	1,301,863	



支出	平成28年度実績 (円)	備考
歳末配分金	611,000	87世帯175名
火事見舞金	50,000	1名
緊急生活支援	18,583	2名
特別支援学校修学旅行助成	160,000	16名
保育園助成	256,500	4園513名
その他	23,850	事務費
次年度繰越金	181,930	
合計	1,301,863	

ふくし豆知識

3.11を忘れない

～あれから6年の今、求められること～

◆2011年3月11日に発生した東日本大震災において全国から共同募金会に集まったご寄付は410億円を超え(最終額 41,620,856,683円)、「義援金配分割合決定委員会」(被災都道府県、中央共同募金会、日本赤十字社等の義援金受付団体が構成メンバー)の決定に基づき、その全額を被災された方々にお届けいたしました。(2014年3月31日に終了)

◆いまだ自宅に戻れない方が多い今、仮設住宅や復興住宅で新しいコミュニティを築くための「つながりづくりのきっかけ」となるイベントや交流事業が必要とされています。

そうした「被災された方々を支える活動や団体を支援」するための「ボラサポ2」(災害ボランティア・NPO活動サポート募金2)では寄付金を募集しています。※ボラサポ2へのご寄付は所得税(所得控除または税額控除)および法人税(特別損金算入)の税制の対象

◆また共同募金会では、赤い羽根共同募金の3%を「災害等準備金」として積み立てています。国内で災害が発生した場合、この資金をもとに災害ボランティアセンターの設置や運営等への助成を行います。共同募金に協力いただいた皆さまの善意が被災地支援にも役立っています。



VOICE

寄附者の指定される団体へ払い出させていただきます。 (1)盲導犬関係の支援に (2)在宅サービスセンターとNPO法人らいたふサポートくるみへ

善意の預託ありがとうございました

(平成29年1月受付分)

金銭寄附	氏名(敬称略)	金額	内容
	匿名(1)	¥10,000	寄附
物品預託	氏名(敬称略)	物品	内容
	匿名(2)	介護用品43袋	寄附
	匿名	長机13台、照明1台	寄附
	匿名	書損じはがき7枚、はがき17枚	寄附

わだい

◆2/6(月)生活支援事業「おたがいさん」



依頼内容) 台所掃除
 依頼者) 女性
 サポーター) 1名

【依頼者の感想】

●手が痛いので換気扇の掃除は難しいです。長い間、気になっていたのできれいにしてくださりました。

◆1/30(月)視覚障害者交流会



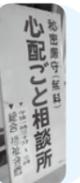
参加者4名
 ボランティア1名
 ピザづくりを実施しました。

【参加者の感想】

●なかなか自分ではピザ作りはできないので、いい機会になりました。

◆修繕していただきました

●「相談事業」で使用している看板
 ●「介護機器貸出事業」の車いす
 男性有志ボランティアさんに修繕していただきました。



◆給食サービスお手紙ボランティア

メンバー2名
 「切り絵」のお母様と、「ほのぼののイラスト」のお嫁さん、というお二人の手紙ボランティアさんに、給食サービス事業のお弁当の包み紙の絵柄を作成していただいています。いつもありがとうございます。



◆絵手紙グループ「びわの会」

メンバー9名
 給食サービス事業を利用される方のお誕生月に、「びわの会」の皆さんの絵手紙をお付けしています。季節感を大切に描いてくださっているのがいつも伝わります。いつもありがとうございます。



◆1/30(月)・2/10(金)

はじめての朗読ボランティア養成講座

1/30講師: 明石朗読ボランティアサークル
 「音のさんぽみち」の皆さま
 2/10講師: 稲美町朗読ボランティア「せせらぎ」



受講生15名
 いしがき創造センター
 このたび、朗読ボランティア養成講座を初めて開催することができました。申込初日に早速お申し込んだ方の中には「こんな講座を受けてみたかったから嬉しい」という声もあり、15名の方に受講していただきました。

【参加者の感想】

●録音は緊張しました。

参加された方に録音の体験をしていただきました。皆さんとてもお上手で、ぜひ一緒に活動していただけたら、と思いました。
 (朗読ボランティア N.N)



社協のつづき

♪春よ来い 早く来い 歩きはじめたみいちゃんか
 赤い鼻緒のジョジョ履いて おんもへ出たいと待っている♪
 幼い頃、よく耳にした童謡、今も学校で習うのかしら?

何歳くらいの若い方までがご存知なのでしょうね。春待ち遠しい心境の中で、ふと思い出し口ずさんだメロディーでした。
 (ME)

法律相談 原則毎月第2木曜日13時30分～15時30分 障害者ふれあいセンター 予約要(先着4名) 079-492-8668まで
 心配ごと相談 原則毎月第1・3・4木曜日13時30分～14時30分 予約不要(第1木)総合福祉会館(第3木)母里福祉会館(第4木)障害者ふれあいセンター

オープンカフェ 原則毎月第2金曜日 10時～11時30分 障害者ふれあいセンター フリードリンク100円
 善意銀行 随時
 福祉会費 毎年6月
 共同募金 毎年10月1日～12月31日
 歳末助け合い募金 毎年12月
 いつもあたたかいご協力ありがとうございます

ボランティアページ no.140

VOICE

毎回落ち着いた雰囲気の中で、ゆっくりとお話をいただいています。もうすぐ暖かい季節になりますね。お出かけの相手を見つけて参加してみませんか。(金のわらし スタッフ)

参加者募集

ボランティアグループ きっかけの輪づくり応援団 金のわらし主催

男性35~48歳、女性年齢フリー

4/5(水) 締切り

♪ 出会いを応援します♪

と き **4月16日(日)**
10:30~15:00 (受付10:00~)
ところ 稲美町立加古福祉会館ホール
(稲美町加古4369-3)
※駐車場多数あり
内 容) 軽食・ドリンク、トークタイム等
対象者) 独身で結婚をまじめに
考えておられる方
参加費) 男性:2,500円 女性:1,000円

応募方法) ①FAX・パソコンをお持ちの方
稲美町社会福祉協議会にお電話またはメールを
いただきましたら、こちらより申込用紙をFAX、
またはメールで送付いたします。
②FAX・パソコンをお持ちでない方
稲美町社会福祉協議会 金のわらし婚活イベ
ント係まで返信用封筒(送付先住所と氏名をご記
入の上、82円切手を貼付したものを)送付して
下さい。
後日、申込用紙を郵送いたします。

ボランティア募集中

運転ボランティア

活動内容) 町主催のリハビリ訓練やいきいきサロ
ン・いきいきセミナー等の参加者宅と
各会場までの送迎
必要資格) 普通運転免許、70歳までの方
活動日時) 1回の活動は約1時間程度
活動頻度は調整させていただきます

給食ボランティア (特に第2水曜メンバー募集中)

活動内容) ひとり暮らしの高齢の方やハンディの
ため調理がしづらい方のためのお弁当
調理(栄養士による献立があります)
必要資格) 特になし
活動日時) 水曜日の午前中
(およそ8:45~12:00頃まで)
活動場所) いきがい創造センター 調理室

♪ 我が家のスマイル リレーでつながろう♪

スマイルバトン

NO.80



富田 壮持くん(8歳)
幹持くん(6歳)
周持くん(4歳)
東持くん(1歳)

強く、優しく、たくましく!
4人寄れば、なんとかなるさ(ハハ)

皆さまからの赤い羽根共同募金で実施します

耳の日のつどい

聞こえない人のお話や、音の聞こえにくい世界
を体験してみませんか。手話体験をすることもで
きます。みなさんぜひご参加ください。

と き) 平成29年 **3月25日(土)**
13:30~15:30

ところ) 稲美町立加古福祉会館ホール
(稲美町加古4369-3)

対 象) どなたでもお越しください

参加費) 無料

- ◆13:30~14:30 講演
「聞こえ難い子ども達への教育」
(講師) **若松 小百合氏**
(兵庫県立神戸聴覚特別支援学校教育相談コーディネーター)
- ◆14:35~15:00 難聴者体験
ヘッドホンをつけて普段の暮らしを体験
- ◆15:00~15:30 暮らしの中で困ること
(お話) 稲美ろうあ協会・稲美難聴者の会

乙案内 平成29年度 兵庫県ボランティア市民活動災害共済

日本国内における無償のボランティア活動中の
万が一の事故に備えるための保険です。

- ◆掛 金 1名につき500円
- ◆補償期間 平成29年4月1日0時~
平成30年3月31日24時まで
4月1日からの加入を希望される場合は、
3月31日までに手続きください。

平成28年度 ボランティア連絡会講演会

違いを認めあって 地域で暮らす

~みんなが暮らしやすい地域って?!~

と き) 2月9日(木) 13:30~15:30
ところ) いきがい創造センター
講 師) 河原 正明氏
(NPO法人播磨地域福祉サービス第三者評価機構)
出席者) 79名



車いすの生活で気づいたこと

子どもの頃、1人特別支援学校に通っていた自分にとって地域の友だちといえば、弟の友だちだった。弟の友だちと野球などをして遊ぶうち、車いすの自分と一緒に遊ぶためのルール「河原ライン」(★1)が自然にできた。これこそが「新しい価値観」。「ふくし」とは、そういう誰もが参加できて、楽しめるルールをつくることではないだろうか。

★1) ボールが車いすに当たったらアウト、ベースの範囲を狭くして車いすでも回れるようにする、など

「あたりまえではなかったことが、あたりまえになる」
「普通ではなかったことが普通になる」
これこそがユニバーサル社会。

車いすの私をボランティア活動に誘ってくれた友人は、「●●を買ってきてあげる」ではなく、「いっしょに●●を買いに行こう」と言ってくれた。

みんな役割の中で生きている。不必要な人などいない。わたしたちの地域や社会が「ちがい」を認め合える場所であるためには定期的な点検と気づきが重要なのです。

ボランティア活動は、

「ともに生きる」「同じまちで暮らす」を実現すること
ひとりぼっちをつくらないことが安心と安全のまちづくりへの近道。
そのためには、社会の仕組みやお金にとらわれない自発的な活動
(ボランティア) が必要です。

ちかくて
いっつもいる
きのしれたところで
資源を使いながら
みんなと一緒に
役割をもって
生きること

【参加者の声】

ともに生きる(ボランティア)の原則を再び再認識。社協が進める「ひとりぼっちをつくらない地域づくり」にも結びつくと思います。一人でも多くのボランティア活動をする人を求めてやみません。(T.T)

障害を持つ方も一緒に仲間に入り、その時々で知恵を出しお互い楽しくなる方法を考えルールを作る、すばらしいと思いました。(I.M)

自分自身がボランティアされる側になることを思う時、自分がされて嬉しく思うことをやれるようになりたいと思いました。(T.M)

誰かのために何かをしたいとみんなが思える世の中であれば生きやすさが増えると思いました。高齢化が進む現代、助け合って生きていけたら嬉しいです。(A.H)

障害を持つ子どもの親としてのこれまでを振り返り、幼少期を微笑ましく思い出すとともに、涙のにじむ想いが湧いてきました。これからの人生をどう生きるかを考えさせられました。(T.T)

私が行っている活動が相手の立場を深く考えて行っていたか、自分の思いや考え方を主体にして行動していなかったか、を反省させられました。先生の優しさが人に伝わる話し方がとても心に響きました。(A.M)

■相談支援事業所(町内在住の障害をお持ちの方の自立支援について) 相談随時 ますはお電話ください(月~金 9時~17時 祝日除く) 079-492-8668-3620まで

■ほっとファミリー(認知症を学ぶ会) 原則毎月第4木曜日10時~12時 障害者ふれあいセンター ■さくら草の会(介護者の会) 原則毎月第4金曜日10時~12時 障害者ふれあいセンター